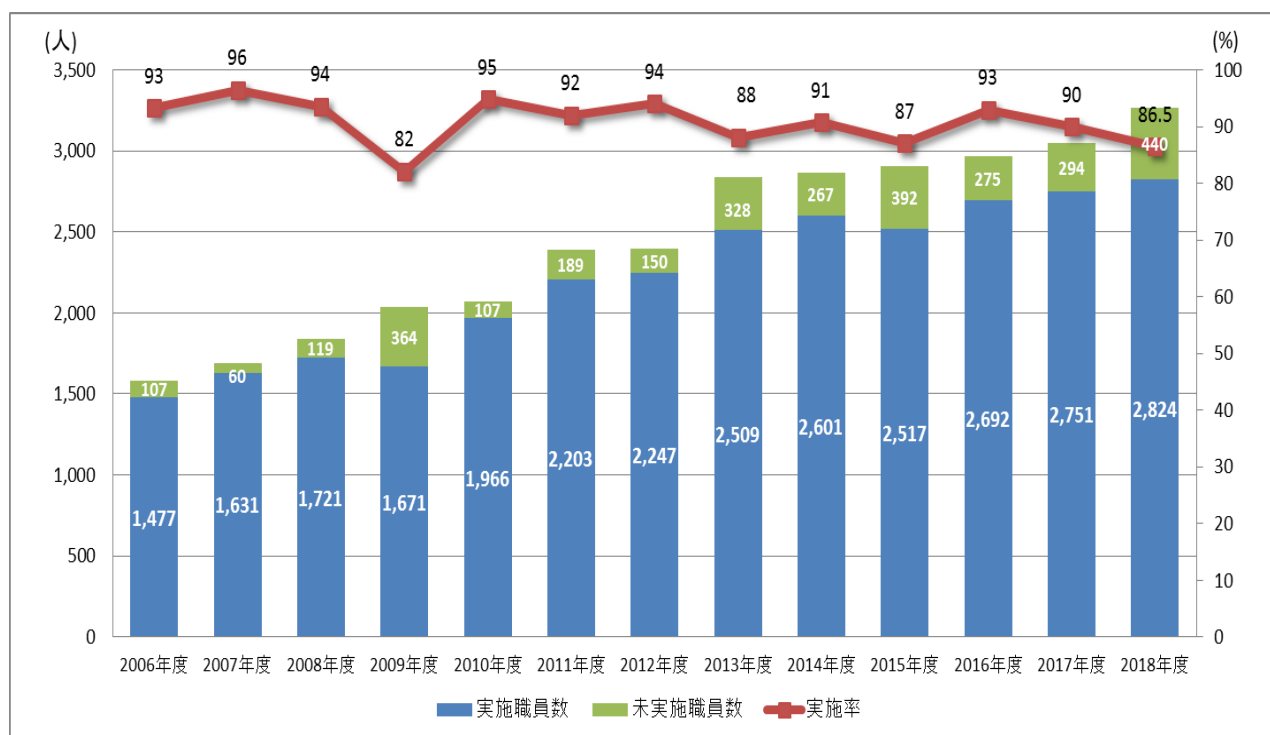


38. 職員のインフルエンザワクチン予防接種率



病院職員のインフルエンザワクチン接種率は、患者の安全にかかわる問題である。病院職員の罹患は、病院を受診する患者への感染機会を増やすこととなるため、注意を払わなければならない。罹患した職員の業務が制限され、その結果職場の人員不足を招くこともある。予防接種率を上げることで、罹患の可能性が減少し、重症化も抑制される。

当院のインフルエンザワクチンの接種率（他施設での接種は含まず）は、他施設で公開されている接種率（80~90%）と比較しても同等かもしくはやや高い数値である。これは健康管理室の啓蒙活動や各部門の協力、自覚の高い職員が多くなったことなどが要因であると考えられる。

データ提供 法人本部健康管理室